

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生看護学概論 I			必修	1	2	後期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山崎洋子他		301	y.yamazaki	火曜日 16:40~17:30		
授業の目的・概要	公衆衛生看護学の目的、対象、方法の概要を学ぶ。自分自身の生活・健康・環境とヘルスプロモーションの概念を関連付け、集団や地域住民を対象とした看護学の目的、対象、方法の概要を理解する。また、発達段階と健康レベル、対象の大きさによりどのような場で看護職が活動しているか模擬家族を用いて理解し、それぞれの場での看護職の役割と連携の必要性を考える。					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()					
学習上の助言	保健師課程の選抜試験を受けようとするものは、本授業の十分な理解が必要なため、積極的な質問、自己学習を期待する。					
教科書	最新 公衆衛生看護学 第3版 宮崎美砂子他/日本看護協会出版会/2021					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021/厚生労働統計協会 ・公衆衛生がみえる 2022-2023/メディックメディア 					
外部教材						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域生活集団の構成を理解し、生活と健康との関連を説明できる			HSU(1)、NS (1、3)		
②	公衆衛生看護活動の目的、対象、方法を説明できる			HSU(3)、NS (4、5)		
③	公衆衛生看護活動に必要な概念を説明できる。			HSU(3)、NS (1、2)		
④	保健指導技術の一部を模擬できる			HSU(2)、NS (2、3)		
⑤	地域ケア体制づくりのプロセスを説明できる			HSU(1)、NS (2、5)		
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)			
1	オリエンテーション・公衆衛生看護学の概念(目的、対象、領域)	対面講義	授業開始にあたり、学生の受講の目標を明らかにして臨むこと。			
2	公衆衛生看護活動に必要な理論 ヘルスプロモーションと倫理	対面講義	これまで学修した看護学の理論を整理しておくこと			
3	ヘルスケアシステムの中で機能する看護	対面講義	これまで学生自身が利用したヘルスケアについて振り返る			
4	公衆衛生看護活動の展開とその方法 (地区活動)	対面講義	事前に示す事例を読んで受講する			
5	公衆衛生看護活動に必要な援助技術 1 (保健指導の方法・技術)	対面講義	教科書の「保健指導論」を事前に呼んで参加する			
6	公衆衛生看護活動に必要な援助技術 2 (家庭訪問援助)	対面講義・演習 (PBI)	事前に示す援助事例を読んで講義を受け、援助を考えながら援助技術を整理する。			
7	地域ケア体制づくり	対面講義・演習 (PBI)	事前に示す実際の事例を読んで講義を受け、実際の活動のプロセスを考える。			
8	公衆衛生看護における研究・全体のまとめ	対面講義	今後の学習課題を明確にしておく			
試	定期試験は、筆記試験とすし、PBLのレポートの記述内容は講義中に示す。					

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	50	40	0	0	10	100	
	思考・推論・創造する力	40	10	0	0	0	50	
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20		
問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10		
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	試験の問題形式は、選択式、記述式、穴埋め式とする					試験結果の公表解説を配布予定である。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
レポート	①	✓	レポート課題、記述すべき内容は、講義内に示す。					レポートはコメントして返却する
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	講義内での質問、リアクションペーパーの記述内容を重視する					講義の内容に反映させる
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
備 考								
他 担 当 教 員	伊丹幸子							
教員の実務経験	担当教員は、自治体、病院退院支援窓口などの保健師としての実務経験を15年以上有する。							
実践的授業の内容	教員の実務経験、研究、実習指導で収集した優れた保健師の実践活動を事例として取り上げ、公衆衛生看護活動についての理解を促せるようにしたい。							
そ の 他	大学が公表する感染対策を遵守し、指示に従うこと。感染症のまん延状況等によっては、授業の方法・内容が変更されることがある。 欠席する場合は、教員あるいは、事務室に連絡すること。 配布した資料は、後続する実習(在宅看護学実習・公衆衛生看護実習)でも用いるので、保存すること。							